平成２７年度
「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」

【観光分野】
「福島版ＭＩＣＥに対応できる中核的人材育成事業」

学校法人新潟総合学院　郡山情報ビジネス公務員専門学校

【はじめに】

ＭＩＣＥ（マイス）とは、Meeting,　Incentive, Convention or Conference,　Event or Exhibitionの頭文字をとった言葉である。

国際会議や学会、国際的なイベントなどが開催されると、国内・海外から多くの人が集まり、通常の観光旅行に比べ参加者の消費額が大きいことから、観光立国を目指す日本でも、観光庁がＭＩＣＥ推進アクションプランを策定するなどＭＩＣＥの誘致に力を入れており、各自治体においてもＭＩＣＥ誘致活動が盛んになっている。

東日本大震災・福島第一原発事故後、風評被害に苦しんできた福島県内の経済再生と産業構造の変化に伴って、観光資源の再生と交流人口の拡大が叫ばれている。

観光業は裾野が広い産業であり、来県者の増加に伴い大きな経済効果が期待されるという理由がある。

一方、県内の観光業に関する課題は山積しており、中でも観光業を担う若者の数はまだまだ少ないのが実情であり、同時に観光に従事する人材の育成には相当の時間を要する。

福島県は、再生エネルギーや医療のロボット産業などを集積し、県民を挙げて新産業を創造しようとしている。

産業構造が変化していく福島県において、将来の観光業を中核として担う人材を育成するために取り組んできたことを報告する。

【ＭＩＣＥの概念】

〈ＭＩＣＥの概念〉

Ｍｅｅｔｉｎｇ	ミーティング	社員研修など企業の会議・研修・セミナー等
Ｉｎｃｅｎｔｉｖｅ	インセンティブ	企業等の社員表彰のための報奨・招待旅行等
Ｃｏｎｖｅｎｔｉｏｎ	コンベンション	国際会議、学術会議（学会）、国際大会
Ｅｘｈｉｂｉｔｉｏｎ	エキシビジョン	エキシビジョン、スポーツイベント コンサート、各種イベント、展示会、見本市

〈ＭＩＣＥの意義〉

直接的効果・・・・人が集まる　→地域への経済効果
　　→都市力・競争力の向上
間接的効果・・・・付加価値の創造　→イノベーション機会の創造

参考資料：郡山コンベンションビューロー

【報告内容】

- １．事業の概要・事業の実施体制
- ２．我が国におけるＭＩＣＥの現状と課題
- ３．福島におけるＭＩＣＥの現状と課題
- ４．国内のＭＩＣＥ先進地視察
- ５．福島版ＭＩＣＥモデルカリキュラムの考案
- ６．実証講座
- ７．次年度に向けて

１．事業の概要・事業の実施体制

事業の概要

〈目的〉

　東日本大震災後及び原発事故後に産業構造が変化している福島県において、特に観光分野の復興から地方創生・再生をはかり、日本全国のモデルとなり、世界に通用するグローバルな人材の育成に取り組む。

〈養成する人材像〉

観光系のライセンスを活かし、本校が所在する郡山市周辺をはじめとする地域の自然、歴史、文化、伝統行事について詳細にわたる知識を有し、行政、観光関連事業者及び観光関連団体と協力・連携を図りながら、観光客受け入れ体制づくりに参画し立案できる人材。

日頃から地域の観光に対する意識を醸成し、おもてなしの心を持ち、外国人を含む来訪者との積極的な人的観光交流に努める人材。

〈事業の成果目標〉

○福島版ＭＩＣＥに対応できる人材育成カリキュラムの考案

○専門学校の授業と企業実習を関連付けた実践的教育の実証

○ＭＩＣＥ先進地を参考にした福島版へのカスタマイズ

○留学生の県内ガイド活用の検討

事業の実施体制

・教育機関
・福島県
・郡山市
・ホテル協会
・観光業界　　にて編成

	構成機関（学校・団体・機関等）の名称	役割等
1	学校法人新潟総合学院　郡山情報ビジネス公務員専門学校	統括・運営・実証
2	学校法人新潟総合学院　ＦＳＧカレッジリーグ事業政策部	運営・助言
3	学校法人新潟総合学院　ＦＳＧカレッジリーグ国際部	運営・助言
4	福島県観光交流局　観光交流課	運営・助言
5	郡山商工会議所	運営・助言
6	郡山市産業観光部観光課	運営・助言
7	公益社団法人コンベンションビューロー	運営・助言
8	郡山市観光協会	運営・助言
9	郡山市ホテル協会・ハマツ観光株式会社	運営・実証・助言
１０	福島交通観光株式会社	運営・実証・助言
１１	郡山観光交通株式会社	運営・実証・助言
１２	株式会社ＪＴＢ総合研究所	運営・助言
１３	郡山ふるさと田舎体験協議会	運営・実証・助言
１４	学校法人龍澤学館　盛岡カレッジオブビジネス	運営・実証・助言
１５	株式会社井門観光研究所	運営・実証・助言

２．我が国におけるＭＩＣＥの現状と課題

- 観光庁は２０１０年を日本のＭＩＣＥ元年（Ｊａｐａｎ ＭＩＣＥ Ｙｅａｒ）として各種の施策を展開、２０１２年には観光立国推進基本計画で、我が国における国際会議の開催件数を２０１６年までに５割以上増やす、としており、マーケティング戦略の高度化、誘致関係者の機能強化によるＭＩＣＥ産業競争力強化、ＭＩＣＥ市場のニーズに合った受け入れ環境の整備など、自治体、コンベンション・ビューローやＭＩＣＥ関連企業・団体の連携及び環境整備などによるＭＩＣＥ分野の国際競争力強化の必要性をあげ、観光庁がイニシアティブを取りつつ政府内横断的な体制を構築する方針などを掲げている。
- 日本でもＭＩＣＥの誘致に力を入れているが、経済成長が著しいアジア諸国をはじめ、世界の国や地域も同様にＭＩＣＥによるインバウンドに積極的に動き出しているため、国家間、都市間における競争が激しさを増している。

３．福島におけるＭＩＣＥの現状と課題

福島県における観光に関係する主な事業

- 【避難地域等復興加速化】イノベーション・コースト構想推進事業
- 【農林水産業再生】　ふくしまプライド日本酒の里づくり事業
- 【新産業創造】　再生可能エネルギー普及拡大事業
- 【風評・風化対策】　東京五輪・パラリンピック関連復興推進事業
- 【復興まちづくり・交流ネットワーク基盤強化】
  ふくしま復興再生道路整備事業

■福島県観光客入込状況

■観光客中心の宿泊施設における実宿泊者数（人泊）推移

４．国内のＭＩＣＥ開催地・先進地視察①

- １．視察先①　東京国際展示場（東京ビッグサイト）
- ２．日程　平成２７年９月２５日（土）
- ３．参加者　郡山情報ビジネス公務員専門学校　国際観光科１７名
- ３．視察先選定理由　東京国際展示場（東京ビッグサイトは1,000人を超す国際会議場をはじめ大小22の会議室と商業施設があり、催事件数、来場者数共に日本を代表する国際展示場である。学生時代に国際会議や国際的催事の展示場の雰囲気を味わう視察の経験が、今後のＭＩＣＥビジネスに取り組む際のイメージや発想に必ず役立ってくるものと思われる。当日は、「ツーリズムEXPO2015」の開催期間であったため大勢の来場者があった。各都道府県別にブースが設けられており、福島県のブースも多くの来場者で賑わっていた。学生にとっては非常に貴重な経験になった。

４．国内のＭＩＣＥ開催地・先進地視察②

- １．視察先②　長野県
- ２．日程　平成２７年１１月１０日（火）～平成２７年１１月１１日（水）
- ３．参加者　ワーキングチームメンバー　６名
- ３．視察先選定理由　長野県は首都圏からの距離や自然あふれる生活環境等において福島県との共通点が多い。しかし、観光施策において長野県は早くから日本のリゾート地として認知されている上、１９８８年に開催された冬季五輪・パラリンピックで世界的に注目されて以来、日本の地方都市として国際化が進んでいる。今回は「エムウェーブ」「ながの観光コンベンションビューロー」「白馬村」を訪問し、長野市 における会議、大会、学会、合宿などの受け入れにあたっての 取り組み状況を視察してきました。

東京ビッグ・サイト視察（９月）
ツーリズムEXPO　JAPAN2015

東京ビックサイト　福島県のブース

長野市・白馬村視察（11月）

エムウェイブ↘

善光寺↘

⇐白馬村ジャンプ台

5．福島版ＭＩＣＥモデルカリキュラムの考案

	科目	内容
1	ＭＩＣＥ概論	ＭＩＣＥに関する概論学、ＭＩＣＥビジネスの将来性の理解
2	ＭＩＣＥ実習	ＭＩＣＥの準備段階から、開催後のフォローまでの実践
3	語学	実用英語検定２級、観光英語検定２級、ＴＯＥＩＣ７５０点 韓国語能力試験３級、中国語検定試験３級
4	福島県の観光行政	福島県の観光の特徴、震災前後の観光入込数の変遷、震災後の観光振興に向けた取組
5	地理・歴史学	福島県の地理、歴史
6	旅程管理	旅行者の移動の円滑化に関する知識、運送機関及び宿泊施設に関する知識 安全対策及び事故発生時の対応に関する実務処理の能力等
7	ガイド心得	現地ガイドとしての心構え、業務内容、制度等
8	放射線基礎講座	原発事故の情報、放射線量に関する基礎知識、放射線量モニタリング調査結果や食品のモニタリング結果等
9	接遇	外国人旅行者の特徴（国別、地域別）、習慣、マナーに関する知識やおもてなし精神の涵養
１０	救急救命	ＡＥＤ（自動体外式除細動器）の取り扱い、応急手当の知識・技術
１１	実地研修	現地ガイドしての実習、行程管理、 総合的なガイドスキルの習得、携帯電話不感地域の把握や緊急避難先の確認等、災害時や異常気象における応対など

ＭＩＣＥの実践モデルカリキュラム

ステップ		実習内容	時間数
検討段階	1	会場の情報提供・相談業務・施設資料等の提供	4
	2	事前視察の受け入れ・プロモーションＤＶＤの貸し出し	2
準備段階	3	コンベンション開催助成金・開催準備金等の貸付申請の把握	2
	4	歓迎看板、市内ガイドブック、グルメガイド作成依頼申請、コンベンション依頼申請	6
	5	開催打ち合わせの立ち合い	6
	6	準備視察の受け入れ・行政機関との調整・橋渡し・各施設との調整	１２
	7	会議・宿泊施設の紹介・コンベンション関連企業の紹介・ボランティアの紹介	１２
	8	エクスカーションの紹介・アトラクションの紹介・交通機関・コンベンションバスの紹介	１２
	9	アクセス・誘導等のアドバイス　　プレ＆アフターコンベンションの企画相談	8
	１０	タクシードア歓迎ステッカーの掲出・歓迎看板等の設置	6
開催当日	１１	大会受付・インフォメーションデスクの設置支援	2
	１２	外国語通訳・補助通訳・ボランティア等の紹介	4
	１３	観光ＤＶＤ等の貸し出し・オリジナルグッズの提供	2
	１４	グルメガイド・観光パンフレットの提供	6
終了後	１５	記録・検証	6

６．実証講座　講師：孫の手トラベル　松井美佐子氏

▶福島県内の国立公園ガイド実習（７月）

磐梯朝日国立公園

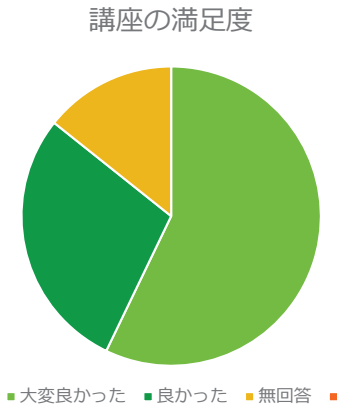
尾瀬国立公園

６．実証講座　講師：福島特例通訳案内士　酒井 蓉子　氏

▶福島版通訳案内人入門講座（１～２月）

《第ターム》		《第２ターム》	
1	事業の趣旨説明	1	福島特例通訳案内士について 福島県ならではの観光地、ガイディング
2	講師紹介	2	英語による日本文化の紹介例 ・お風呂の入り方　・食事のマナー
3	通訳案内士制度の概要	3	通訳業務中の成功談、失敗談
4	現在の観光を取り巻く社会環境	4	通訳案内士を目指す方へのアドバイス 学習方法、通訳養成講座の内容
5	通訳案内士の仕事	5	質疑応答
6	全国版通訳案内士と福島特例通訳案内士 との受験制度の違い	6	アンケート記入

福島通訳案内人入門実証講座（学生12名・社会人14名）



受講後のアンケートより
・通訳案内人の役割や試験制度が理解できた。
・福島県の置かれている状況やガイドの必要性を実感した。
・実際に外国人に対して英語で案内する心構えができた。
・日本の文化、福島県内の地理・歴史を再認識するきっかけになった。

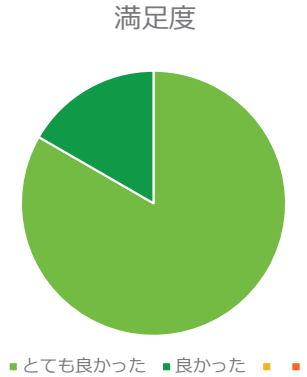
6．実証講座　講師：福島交通観光社長　相山 進 氏

▶福島観光学入門講座（２月）

《第１ターム》		《第２ターム》	
1	事業の趣旨説明	1	地図の作製
2	講師紹介	2	観光の仕事をして上での留意点
3	現在の仕事の概要	3	福島県の観光地、観光資源について
4	現在の日本の観光を取り巻く社会環境	4	業務中の成功談、失敗談
5	現在の福島県の観光を取り巻く環境	5	就業前（学生時代）にしておくべきこと
6	質疑応答	6	質疑応答

福島観光学入門講座（国際観光科１・２年生　１２名）

講師：福島交通観光株式会社　代表取締役社長　相山　進　氏
日程：平成２７年２月１０日（火）９時３０分～１１時３０分



受講者のアンケートより
・福島県の魅力を再認識することができた。
・地図の作成やロールプレイの盛り込んでいて非常に分かりやすかった。
・観光の仕事をしていく上での注意事項や業務中の成功例や失敗例を学ぶことができた。
・観光の仕事に従事するために、学生時代にしておくべきことが理解できた。

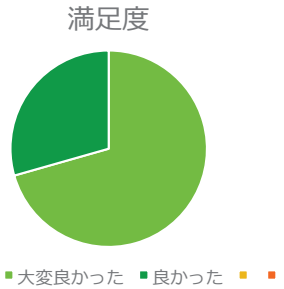
６．実証講座　講師：郡山コンベンションビューロー　上田　哲　氏

▶福島版ＭＩＣＥ入門講座（２月）

《第１ターム》	《第２ターム》
１．講師紹介	１．郡山コンベンションビューローの取り組み ・３ケ年計画、ＫＰＩ/ＫＧＩ/ＰＤＣＡ ドメインの拡大 ・相対的経済効果、経済波及効果、
２．郡山コンベンションビューローについて ・活動内容、組織の特徴	２．福島県版ＤＭＯについて ・観光戦略と稼ぐ力
３．経済のしくみと福島県の課題 ・経済の構成要素と人口減少	３．今後の仕事に役立ててもらいたいこと ・営業活動を通して 営業マンの資質 人との距離感の縮め方、報連相の徹底 広い視野でものを考える 小さなことの積み重ね 理論と
４．ＭＩＣＥの概要とＭＩＣＥの将来像 ・ＭＩＣＥの定義と意義、経済効果、ＩＲ	

福島版ＭＩＣＥ入門講座（国際観光科１・２年生　12名・ホテル･ブライダル科1年生5名）

講師：郡山コンベンションビューロー　事務局次長兼誘致支援課長　上田　哲　氏
日程：平成２７年２月１２日（金）１０時００分～１２時００分



受講後のアンケートより
・経済や業界の勉強になり、将来性も理解できた。
・福島県について発信してことの重要性を認識できた。ボランティアにも参加したい。
・世界と地元を全く別にとらえるのではなく、世界で学んだことを地元で活かしたいと思った。
・今まで学んだ観光の学習とＭＩＣＥを関連づけて、もっと応用させていけるようにしたい。
・ＭＩＣＥの意味や経済効果について学ぶことができ、将来に役立つ講義内容だった。

７．次年度に向けて

▶福島ならではのＭＩＣＥに対応できる人材の育成 平成２７年度に経験した研修や視察旅行を活かし、より実践的なカリキュラムへと移行	インターンシップの実施・留学生の活用 郡山コンベンションビューローのボランティアに登録しイベント・コンベンションへボランティアとして参加
▶プレ＆アフターコンベンション企画作成	国立公園（裏磐梯・尾瀬）ツアーの企画立案実習導入 温泉・郷土料理・酒の種類等を学ぶ講義の実施
▶国内でモデルにする地方のＭＩＣＥ先進地の研究	
▶海外でモデルにするＭＩＣＥ先進地の研究	
▶行政機関・産業界との連携	県・市・ホテル協会・観光業界とのさらなる連携
▶産業構造の調査・研究	医療・エネルギー・ロボット・航空の最先端技術に関する学会・会議の調査
▶実証講座の展開	社会人講座の実施

７．次年度に向けて

インターンシップ

ボランティア

実地研修

行政・産業界との連携

カリキュラム全国展開

【おわりに】

「福島版ＭＩＣＥに対応できる中核的人材」とは、必ずしも特定の資格を有する必要はないが、行動力・コミュニケーション能力・企画力など幅広い資質を備えた人材であると言える。学生時代にＭＩＣＥの現場を経験することにより、今後県内で開催される各種の学会・国際会議・イベント・大会などにおいて、活躍できる場が広がっていくことを期待したい。

福島県観光復興キャンペーン委員会とＪＲ東日本は、大型観光企画「ふくしまディスティネーションキャンパーン（ＤＣ）」の後継事業として、2016年4月～6月まで繰り広げるアフターＤＣを「花」「食」「温泉」のテーマを引継ぎ、昨年の1.5倍にあたる55の特別企画を展開する。国内外で高く評価されている県産日本酒や郷土料理を前面に出したイベントも企画されている。観光の従事員や観光業への就職を目指す者にとって、行政が「観光立県」確立に向けて、どのように事業を進めようとしているかを把握することが非常に大切であろうと思う。教育機関側としても行政の進行方向を確認し、地域のニーズにマッチした人材育成のためのカリキュラムを導入しなければならない。その点において、今年度の事業では、行政・産業界の有識者に参画いただき、現在現場で求められている人材像などについて、忌憚のない意見を頂戴できたことが大きい。

今後、さらにカリキュラムを改善し、次年度以降につなげていきたい。

ご清聴いただき
ありがとうございました。

学校法人新潟総合学院
郡山情報ビジネス公務員専門学校